

審査合格

修士論文発表・審査 M2無事通過

-2年間の研究成果の集大成を迎える- text_kikuchibara

2月12、13日、平成20年度の修士論文審査会が行われ、本研究室の修士課程10名(蛸灰谷、鎌形、亀長、北村、鈴木、大道、ナッタポン、平岡、増田、矢原、山田)、は無事論文審査を通過した。



都心部の市民活動を支える主体の多様性と連携に関する研究
-東京都千代田まちづくりサポート事業助成グループを通じて-

蛸灰谷 愛

NPO バンクと融資先で構築される相互信頼関係に関する研究
-東京CPB と北海道NPO バンクを対象として-

亀長 尚尋

保険による伝統的建造物群の維持管理・防災活動促進の可能性

鈴木 惇也

歴史的町並みを活かした観光まちづくりの成立過程と実態に関する研究
-千葉県香取市佐原伝統的建造物群保存地区を事例として-

パンノイ・ナッタポン

日本におけるマッチングファンド型まちづくり支援システムの導入における可能性と課題について ~神戸市を事例として~

増田 圭輔

景観まちづくりにおける地場産素材の活用推進とデザイン向上に関する研究

鎌形 敬人

瀬戸内海の離島における生活行動と地域の魅力に関する研究
-香川県粟島をケーススタディとして-

北村 修一

2001年以降の都市計画道路の見直しに関する研究
-岐阜県を事例として-

大道 亮

住民啓発手法としての「景観まちづくりガイドブック」に関する研究
-新宿区榎地区を事例として-

平岡 性

神楽坂における地域主導による保全まちづくりの展開
-地区の変容が組織体制に及ぼした影響に着目して-

矢原 有理

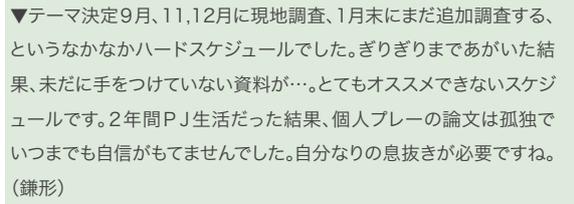
都市型漁業集落における水辺の空間構造と利用形態に関する研究
~横浜市子安浜を対象として~

山田 渚

VOICE -修論を終えて 修論を終えての率直な感想を、M2の方々に語っていただいた。



▼大変だったのは、自分のモチベーションを保つこと。集中力が持続しないタイプなので、どうにか楽しみながらやろうと常に考えていました。でも、最後のほうはなかなかそうもいかず…。周囲に迷惑や心配をかけたが、思いっきり甘えてやった(?)ぶん、学生生活のしめにとびきり濃厚な時間を過ごすことができました。(蛸灰谷)



▼テーマ決定9月、11、12月に現地調査、1月末にまだ追加調査する、というなかなかハードスケジュールでした。ぎりぎりまであがいた結果、未だに手をつけていない資料が…。とてもオススメできないスケジュールです。2年間PJ生活だった結果、個人プレーの論文は孤独でいつまでも自信がもてませんでした。自分なりの息抜きが必要ですね。(鎌形)

▼修論の軸は、M1の2月から一貫していました。しかし、核心に迫っていくと攻め続けているうちに、テーマは色々変わってしまいました。M2の1年でようやくテーマの全体像を掴めた感じ、だから修了後も、今のテーマに挑み続けて、今回解決できなかったことをいつか解決したいと思っています。(北村)



▼就職先が決定した瞬間からテーマは文化財(なんかふるいもの)と保険と決めており、新しいことを知ることはとても楽しかったです。誰に相談しても保険と文化財双方の事情を把握しているわけではないことが辛くもありましたが、「新しい研究」という研究者としての醍醐味を存分に味わうことができたと思います。(鈴木惇)



▼僕にとって修論の期間は自分の疑問への探究の時間や自分と向き合う時間であり、この2年間で一番有意義な時間だったと思っています。修論を通じて自分が積み重ねてきたことや誤魔化してきたことははっきりと分かり、それが楽しさでもあり、苦しさでもあります。修論と長く関われば関わるほど修論から得られる楽しさや苦しさをより深く味わうことができるとともに、修士過程における自己の成長につながると思います。(ナッタポン)



▼高山Pで初めて訪高した際、都市計画道路によって歴史的町並みが無惨にも壊されているのを目の当たりにして、都市計画道路の見直しを修論のテーマにしようと思い立ちました。今になってやっと、調査のノウハウ、関連する基礎知識が身に付き、研究のスタートラインに立てたような気がしています。調査の技術的な面について、もっと早い段階で先生方に相談していれば…と思わないでもありません。(大道)



▼「地区らしさ」の保全に興味があり、対象を神楽坂に決めたのは5月頃でした。ヒアリング等を通してまちづくり関係者から学ぶ点が多く、大変貴重な機会となりました。論文自体は思うような出来になりませんが、今後も長期的に神楽坂のまちづくりに貢献していく、という目標が出来ました。(矢原)



▼修論のテーマを子安浜に決めたのはM2の9月です。実際は3ヶ月ちよいで人間関係をつくって調査して…と大変でした。子安浜の方々は朝型なので、私の生活も早寝早起きを心がけました。お陰で執筆の際はいりリズムを作れて、毎日とても前向きで論文が楽しくて仕方なくて、毎晩興奮して眠れないという神がかり的な生活を送れました。(山田)



次のステップに向けて

—冬学期ジュリー開催—

text_kikuchibara



M2の方々の修士論文発表が近づく2月9日から2月12日にかけて、M1と博士課程の学生は冬学期ジュリーに臨んだ。発表者はM1全員と、博士課程4名(ティアムスーン、リー、鈴木、楊)であった。各自、この日のアドバイスを活かし、次のステップに向けて研鑽を重ねる必要がある。

【発表者とタイトル(一部)】

- ・菊地原徹郎「地方小都市の中心市街地の役割に関する研究」
- ・竹本千里「地場産業に基づく景観の保存に関する研究」
- ・土信田浩之「歴史的建造物の移築を活かしたまちづくりに関する研究」
- ・中島和也「都市空間を考えるための準備的考察」
- ・西川亮「地域遺産の広域連携による保全活用に関する研究」
- ・藤井高広「建設現場における「仮囲い」に関する研究」
- ・六田康裕「景観地区導入のプロセス及びその運用実態に関する考察」
- ・鈴木 智香子「小規模単位の民有空間を活かした住民主導型住環境再編」
- ・ティアムスーン シリスリサク「The Notion of Historic Urban Landscape, Case of Bangkok old town」

田村PJ・基本計画WS開催

text_kikuchibara



2月7日、田村市のまちづくり基本計画策定に向けたワークショップが行われた。田村PJは現在、田村市を構成する船引町と滝根町でそれぞれまちづくり基本計画の策定に取り組んでおり、今回は両地区同日開催とあって、忙しい1日となった。

昼に行われた船引ワークショップは、6方針25計画もの案を東大側から提案をし、特に重要な4方針18計画について4班に分かれて話し合った。議論すべきテーマが多く、提案側の準備不足や、初参加の参加者が多かったなどもあり、運営に課題を残した。一方、同日夜に行われた滝根ワークショップは議論すべきテーマが明確であり、また顔なじみの参加者が多く、スムーズに進行したが、新たな参加者確保という点が課題であった。

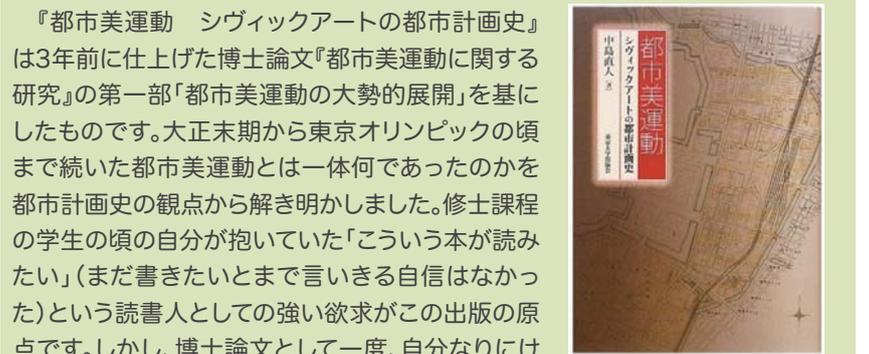
2つのワークショップを通じ、参加者に合わせたワークショップを設計する重要性を痛感した1日であった。

中島助教の博士論文が待望の書籍化

text_kikuchibara

各方面から高い評価を受けている中島助教の博士論文がベースとなっている「都市美運動 シヴィックアートの都市計画史」が2009年2月、東京大学出版会より書籍化された。全510ページにわたる大作で、中島助教のコメントにもあるように、読み応えのある「あとがき(謝辞)」は健在。

無事出版を終えた中島助教にコメントを頂いた。



『都市美運動 シヴィックアートの都市計画史』は3年前に仕上げた博士論文『都市美運動に関する研究』の第一部「都市美運動の大勢の展開」を基にしたものです。大正末期から東京オリンピックの頃まで続いた都市美運動とは一体何であったのかを都市計画史の観点から解き明かしました。修士課程の学生の頃の自分が抱いていた「こういう本が読みたい」(まだ書きたいとまで言いきる自信はなかった)という読書人としての強い欲求がこの出版の原点です。しかし、博士論文として一度、自分なりにけりをつけてしまった仕事を再度まとめ直すという作業はそう気が乗るものでもなく、苦勞しました。当初は大幅に手をいれる計画だったのが、結局、博士論文を書いていた頃の自分を信じることにして、大きな修正を施すのはやめ、細部の考証の精度を上げるに留めました。

この本は、今の自分というよりは、これまでのいろいろな時代の自分がつくりあげてくれたものだという感覚があります。そして、出版後は自分の手を離れ、現在はたまた未来の様々な時代の様々な読者の方がそれぞれに意味付けてしてくれることで、この本は成熟していくのだろうと期待して、胸をときめかせています。

なお、「是非読んで欲しい箇所は？」との質問に対しては、お約束ですが「あとがきを(から)読んで下さい」と答えたいと思います。「あとがき」にも書きましたが、一冊の本を出すまでには、西村先生、北沢先生をはじめ、沢山の方々から学恩を受けました。この紙面を借りて、改めて、お礼申し上げたいと思います。 中島 直人



朝日新聞3月22日の紙面にも掲載されました

編集後記

text_kikuchibara

M2の皆さん、無事修論通過おめでとうございます。M2の方々のコメントを見ると、この修論でようやく研究の入口に立てたという感想が多く見られます。一方研究論文を積み重ね、ついに一つの本にまとめた中島助教。期限を設けて自分の考えを(不完全でもいいから)何かしらの形に落とし込む作業の大切さを、再確認した2月でした。

都市デザイン研究室 3月の予定

- 3月10日 高山PJ活動報告会
- 3月23日 修了式・追いコン